

便の便り No. 7

今回は便秘と正反対の下痢の便りを皆さんに届けたいと思います。下痢とは便の水分量が多かったり、便の回数が多い（通常1日に3回以上）ことを言います。同時に腹痛や発熱、冷や汗など伴うこともあります。

<熱の出る下痢は怖い>

中でも怖い下痢は発熱を伴うものです。さらに下痢便に血が混ざっているような場合は深刻です。家族にうつる伝染病の可能性もありますので我慢せず受診してください。熱が出るような下痢はばい菌が原因のことが多く、治療が必要です。熱がでなくても水分を取ることすら難しいような場合にはやはり受診が必要です。飲んでも直ぐ吐いたり、直ぐに下痢してしまうような時は点滴で水分を補わなければ体が弱ってしまいます。



<下痢の回数が増えたと肛門にも悪い>

水分量の多い便は消化液の多い便といえます。消化液は意外に刺激が強く、肛門出口付近がヒリヒリ傷む場合があります。原因が拭きすぎの場合もありますが下痢だけで肛門周囲がただれることさえあるのです。最近はおウォッシュレットが備えてある家が増えていますが拭きすぎや洗いすぎにはくれぐれも注意してください。

また、下痢をきっかけに起こる痔に痔ろうがあります。痔ろうは肛門の出口が傷つき、そこで菌が増え、膿がたまったものです。肛門の出口が痛み、熱を持ち、通常赤くはれあがります。痔ろうは我慢しすぎると命をとられる病気です。菌が体中に回ると手遅れになることすらあるのです。下痢をきっかけにお尻に熱がでて、お尻が痛む場合は我慢せず、肛門科を受診してください。

<慢性の下痢>

下痢の便が出る前に腹痛があり（おなかが渋って）、便が出たら腹痛がなくなる場合は大腸過敏の可能性が高いと思います。この下痢は機能性の下痢といい、腸の痙攣がきつい方におこります。ストレスが誘因となっている場合もあります。最近増えている病気です。便秘と交互に下痢を繰り返す方もいます。



<癌の症状としての慢性下痢>

忘れてはいけない怖い病気に大腸がんがあります。女性の癌による死因の1位が大腸がんです。大腸がんはよほど進行しないと症状は出ません。病状が進むと便秘になることもあれば下痢になることもあります。また、膵臓がんの症状として下痢になる方もいます。消化酵素の製造工場である膵臓が癌に冒されると消化不良になり、下痢しやすくなるわけです。特に脂っこい食事の後、下痢する方がいます。